

3年連続7億円突破へ向け意欲!

静内ミニトマト部会主催青空研修会行われる

5月22日、ミニトマト「太陽の瞳」生産者をはじめ、道内外市場関係者や各農業関係機関から52名が参加し、静内ミニトマト部会(部会長 中道雅則 部会員38名)主催の青空研修会が実施されました。

本研修会では、中道部会長の圃場をはじめとした3圃場を巡回し、生育具合の比較を行いました。どの圃場も4月から5月にかけての日照不足や低温の影響を受けることなく、玉付き、色やツヤなど順調な生育過程であることが、市場関係者らによって確認されました。

加えて、中道部会長の圃場では、今年から新たに試験栽培を行っている「キヤロルパッション」など2品種の生育具合や栽培方法の視察・経過報告も行われました。現在、道内外11市場に出荷が始まっており、7月前半に出荷のピークを迎える予定で、3年連続販売金額7億円突破に燃える生産者からは、熱い視線が注がれていました。また、前日には関係者100名以上が参加した選果場開きも行われ、今年度の青果物販売へ向け、本格的なスタートが切られました。(営農部生産課 西岡敬司)



皆さん真剣な眼差しで見つめています



前日には、盛大な選果場開きが行われました

本格的な営農活動がスタート

今号から各振興会、青年部や女性部の活動をより沢山ご紹介していきます。今回は、3年連続販売金額7億円突破を目指して意欲に燃える静内ミニトマト部会の「青空研修会」や春の風物詩ともいえる町営川合牧野への入牧など営農時期の到来を告げるニュースをご紹介します。

秋には大きくなって帰っておいで

町営川合牧野に入牧

5月16日、町営川合牧野で、静内酪農振興会(会長 小池孝義 会員21名)の会員をはじめ、各農業関係機関協力のもと乳牛の入牧が行われました。

この日は、振興会の会員9名で、6カ月齢から23カ月齢までの雌の乳牛95頭を入牧させ、この後には、8頭が新たに加わる予定で、今年合計で103頭の乳牛が牧野を利用します。

また、16日は、入牧した全頭の体重測定に加え、各会員から2頭ずつを選抜して血液検査、ふん便検査ではピロプラズマ原虫やコクシジウムオージスト数の計測などのチェックが行われました。



徳本さん(写真中央)が頑張って追い込んでいます

牧野での放牧は、10月末までの予定で、退牧時には1頭当たり150kgの増体が目標とされており、今年も大きくなって戻ってくるのが期待されます。

(営農部生産課 遠藤正樹)